

# Choho

長崎大学広報誌  
[チョーホー]

長崎大学  
NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Spring

Vol.  
59



この先生に  
教わりたい!!  
-VOL.2-

特集

ART@CAMPUS

No.05



Title

黒鬼

山口直起さん  
教育学部 中学校教育コース 美術専攻

彫刻基礎 授業制作作品。カメレオンをモチーフに、自身の顔のイメージと重ねました。黒い色を付けることで、内面の「悪」を表現しました。

Choho

長崎大学広報誌[チョーホー]  
Vol.59

2017年4月1日発行

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>



Katsuhiko TAKIZAWA Makoto KAGABU Makiko NARITA Yukio MAEHARA Yuichiro SHIBATA

学長室  
だより

## 研究マインドは 人間の本质そのもの

大学の教員にとって最も大切なものは研究マインドだと思います。未知のことに挑戦し新しい価値を創造するための心意気と態度です。研究それ自体は言わずもがな、日々の授業にも研究マインドがものを言います。それこそが、新しい発明・発見や学生諸君が目を輝かすエキサイティングな授業を生み出す原動力になります。長崎大学には、研究マインドにあふれた若い教員たちが数多く存在します。頼もしい限りです。

ある歴史学者は、人間（ホモサピエンス）が地球上にこれほどの繁栄と豊かさをもたらすことができた、その大きな契機は「無知であること」を自覚したことにあると述べています。自然現象、生命現象、社会現象など身の回りの事象を説明する何らの知識も持っていないことを自覚することで初めて、人間は未知への挑戦を開始したというわけです。それがやがて研究という形で洗練され、科学という形で蓄積されました。そして、20世紀以降、累乗化したそ

の蓄積が臨界点を超え爆発的な科学技術の発展をもたらしたのです。研究マインドは人間の本质そのものであると良いのかもしれませんが。

そして今、発展した科学技術は、人間の在り方そのものを大きく変えようとしています。AI（人工知能）、IoTやロボット技術の発達は確実に人間の働き方を変えます。遺伝子改変技術や再生医療は我々の生命観に修正を迫ることになるでしょう。日本においては、未曾有の超高齢化社会が出現します。これらの変化は、人間の価値観や世界観に歴史を画する非連続的な変容を迫る可



可能性があります。私たちは改めて「幸せ」とは何かを問い直さなければいけません。

そんな変容の時代であるからこそ、研究マインドの重要性を強調したいと思います。多様な研究マインドの集合体である大学が、よりよい社会、持続可能な世界の実現のために果たすべき役割はとて大きいのです。

片峰 茂

特集

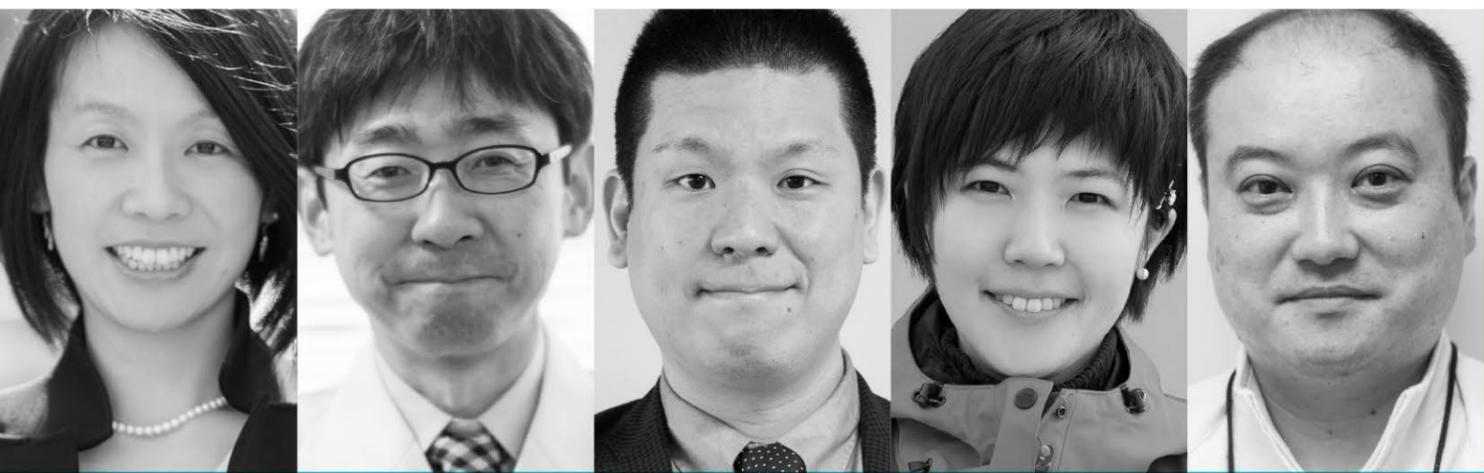
# この先生に 教わりたい!

Vol.  
2



大学には、知的好奇心を刺激してくれる教員との出会いがあります。  
学びの道案内人である先生方は、  
時として皆さんのその後の人生を大きく変える存在でもあります。  
昨年の55号に続き、先生方を紹介する特集の第2弾。  
今回は30代~40代の若手教員を各学部から1人ずつクローズアップしました。  
それぞれの専門分野で研究を深めながら、  
新しい感性で教育に情熱を注ぐ先生方の魅力と奮闘ぶりをご紹介します。

PROFESSORS OF  
NAGASAKI UNIVERSITY



Naoko FUJII Naoya KISHIKAWA Jun KOYAMATSU Yoshiko KONDO Souichi YANAMOTO

### CONTENTS

長崎大学広報誌  
[チョーホー]  
Choho Vol.59

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	研究マインドは人間の本质そのもの	1	表紙のはなし
特集	この先生に教わりたい! Vol.2	2	今号の「研究最前線」で出島の歴史について執筆された多文化社会学部の木村直樹教授。同学部の学生と共に出島を訪れ、第3期復元工事を経て完成した銅蔵を見学しました。撮影当日は対岸から注目の表門橋が架かり、多くの人でにぎわっていました。
サークルの星!	アルティメットサークル「BOB CATS」/落語研究会/全学サークル連合/っじゃすみん/空手道部	13	
研究最前線	歴史研究の宝庫 長崎	15	
卒業生に聞く	楠本成美さん	17	
地域で活かされる長崎大学の「知」	長崎大学とカネミツがレーザー計測システムを共同開発	19	
Information	長崎大学公開講座 クイズ&編集後記	21	

## 囲

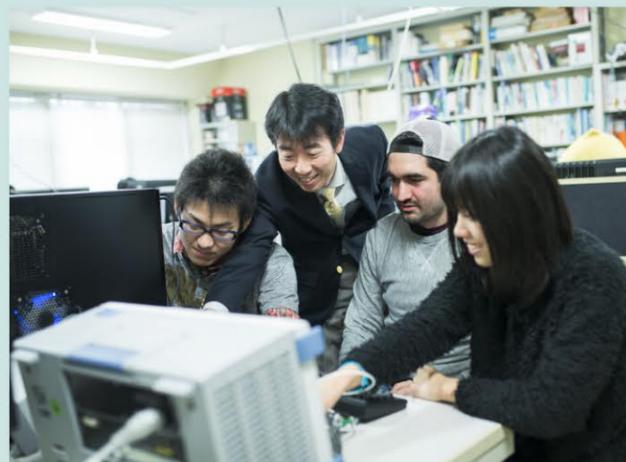
碁や将棋のできる人工知能(AI)が最近話題ですが、同じような対局型ゲームの世界コンピュータシミュレーションで準優勝したチームが長崎大学にあります。工学研究科の柴田裕一郎准教授と学生から成る「チームさくら」です。

「ゲームの種類は毎回変わっていくのですが、各チームが作ったコンピュータ同士が一手一秒で対戦するコンテストです。アイデアを主観的に審査されるものと違い、完全に勝ち負けで勝負が決まるのが爽快ですね。盤面をパッと見たとき、画像処理でどのあたりがポイントになりそうか。戦略、手法、技術、動作テストも大切です。学生は得意分野を分担しながら総合力を結集します。米国のIBM研究所に勝ったときは大変盛り上がりました。学生もみるみる積極的になり、教育効果も実感しました」。

「そもそも先生の専門はコンピュータのしくみの研究。つまりコンピュータを「作る」ことです。

「コンピュータとは目的のない道具。ハードウェアという固い構造があつて、その上のソフトウェアを取り替えることでいろいろなことが可能になります。しかしハードウェアそのものの構成を、例えば計算用、画像認識用など使い道に即して替えられればもつと効率が上がります。昔は回路を設計して部品を組み合わせて作りましたが、今はプログラ

## コンピュータを通してモノづくりの面白さを味わう



それぞれ自作したコンピュータを見せ合う柴田研究室の学生たち。



コンピュータゲームの世界デザインコンペ「HEART2015」では「Blokus Duo」という対戦ゲームで世界第2位になった他、数多くの入賞実績を誇ります。

自作のコンピュータで戦う対局型ゲームの世界大会で2位になりました。



ミンク言語で設計した回路をそのまま具現化できる特殊な半導体のチップがあります。三年次ではそのチップを使ったコンピュータを一人一台作りますよ」。

そのかたわら、二カ月に一度は海外出張を精力的にこなします。

「ケニアでは大学のロボットコンテストの審査を何年もやっています。またミャンマーではJICAのプロジェクトで現地の大学の工学教育支援を行っています。途上国の若者は貪欲でエネルギーシユ。紆余曲折を飛び越えて一番効率の良い方法を学べる一方で、基礎が弱い。日本は基礎教育がしっかりしています。お互い鏡のようなもので、行き来することで良い面と悪い面が見えてきます。海外での経験を日本の教育にも生かしていきたいです」。

学生たちには、モノづくりの本当の面白さを味わってほしいと語る柴田先生。ご自身の研究論文をまとめるときと同様、コンピュータを作るときも楽しくて夢中になれるのだそうです。

工学研究科 電気・情報科学部門

柴田裕一郎 准教授

慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻後期博士課程修了。博士(工学)。2001年長崎大学に着任。2008年より現職。

講義 論理回路(工2年) / コンピューターアーキテクチャ(工2年、4年) / コンピュータ構成論(工3年) / 情報工学実験(工2年、3年)

Yuichiro SHIBATA

PROFESSORS OF NAGASAKI UNIVERSITY

## ワ

「ワーキングメモリ」という言葉をこぞ存じですか? 脳の認知能力の一種で、教育学部で教育心理学を教える前原由喜夫准教授の専門分野です。「重要なことを覚えておいて、必要に応じてその記憶を引っ張り出して使うワーキングメモリは、文章読解や計算、推理推論など、人間のさまざまな思考能力に関連することを知り、興味を持ちました。中でも相手の心を推測する能力との関連を研究しています。相手の気持ちを推し量るときも、脳内に記憶されたいろいろな情報を探し出して「相手は今このように思っているのだろう」と推測する必要があります。ワーキングメモリがダウンしていると人の気持ちも推測できなくなるのです」。

長崎大学に赴任してからは、特にその成果を教育現場に生かすべく、附属小中学校を中心に質問紙調査や心理学実験を主に行っています。

「心掛けているのは、現場の先生の困惑や迷いを少しでも払拭し、教育に応用できる研究ですね。例えば、膨大な量の脳トレ教材は本当に効果があるのか。親切な行為を記録すると自己効力感が増すというのは本当か。また最近話題のクリティカルシンキング(批判的思考力)の客観テストの開発など。心理学の知見は科学的なものなので、きちんとした数字的な裏付けがあります。データを提示して効果の有無を検証で

## 教師にこそ必要な教育心理学



先生の研究室で調査の打ち合わせをする学生たち。



子どもを対象とした調査の際に、緊張や警戒心を和らげる奥の手がこの「飛び出す絵本」。子どもに壊されることもあります。効果は抜群です。

心理学の知見を教育に生かすことで、教師の迷いは払拭できます。



「心理学の知見を教育に生かすことで、教師の迷いは払拭できます。そのための正しいデータの収集や分析の仕方、結論の導き出し方などのノウハウも学生に教えています」。

教育心理学は教員免許取得の必須科目の一つだと聞きました。

「ただ、現実には教員採用試験の暗記科目として詰め込んで、すぐ忘れてしまう人も多いですね。ある公立の小中学校で私がデータ収集の相談をもちかけたら「子どもはデータじゃない、教育には情熱があれば十分だ!」と叱られたこともあり。しかしデータから見えるてくる子どもたちの本当の姿というものが必要あります。そもそも教育への情熱はあつて当たり前でしょう。学生たちには、それに加えて、日進月歩の心理学を学びながら科学的な知見を教育に生かせる教師になってほしいですね」。

「そう力強く語る前原先生。一方で、前原研究室のブログには日常生活での気づきがユーモラスな文章でつづられ、先生の違う一面がのぞけます。人の心は奥が深い!」

教育学部

前原由喜夫 准教授

京都大学教育学部卒業。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。日本学術振興会特別研究員、科学技術振興機構研究員を経て、2014年長崎大学へ着任、現職。

講義 発達心理学(教育3年) / 道徳教育論(教育3年) / 教職実践演習(教育4年) 他

Yukio MAEHARA

PROFESSORS OF NAGASAKI UNIVERSITY



学

術界の芥川賞ともいわれるサン  
トリー学芸賞。多文化社会学  
部の滝澤克彦准教授は、著書『越境す  
る宗教 モンゴルの福音派』で二〇一五  
年の同賞を受賞しました。

「著書では、モンゴル国における福音派  
キリスト教の流行という一見マイナー  
な現象を通して、今日のグローバル化す  
る世界の特徴を描き出そうとしまし  
た。こんな小さな書を認めていただき  
研究の励みになります」。

なぜキリスト教が広まってきたのか。  
そこに興味を持った先生は、十五年以上  
モンゴルに通い、対象者の生活に寄り添  
いながら聞き取りを重ねたそうです。  
「現地の言葉に精通し、信頼関係を築  
いていくのは調査の基本です。人々の日  
常のなげない一言から読み解ける問  
題もあります」。

このようなフィールドワークの手法は  
多文化社会学部で学ぶものの一つ。滝  
澤先生の担当は「宗教文化論」ですが、  
学部教育の他、全学向けの教養教育科  
目でも「宗教学」を教えています。

「よく日本人は宗教に無自覚だといわ  
れます。しかしこれは、世界的に見ると  
極めて特殊なこと。グローバルにもを  
考えるためには、宗教についての見識が  
不可欠です。講義では、ダーウインの進  
化論を否定する人々が現代の米国で多  
いことなども取り上げます」。

日本の小中高校では宗教について学

## 「宗教」からグローバル化を考える



宗教学のゼミの一環として「死者の記録」をたどる先生と学生たち。原子爆弾無縁死  
者追悼祈念堂を経て国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館へ。一人一人の顔を映し  
出す追悼の手法や日本人の死生観について、学生と語り合っていました。



滝澤先生の著書『越境  
する宗教 モンゴルの福  
音派』（新泉社）。ある地  
域に新しい宗教が入って  
いくとはどういうことか。宣  
教師、聖書の翻訳、教会、  
そして信仰と民族主義。  
さまざまな角度から読み  
解いていく力作です。

グローバルにもものを  
考えるためには、宗  
教についての見識  
が不可欠です。



「高校までの学習に慣れた学生は、と  
にかく早く『答え』を求めたがりませ  
ん。しかし、今世界で起きている対立や紛  
争の多くは、正否や善悪について短絡的  
に答えを出してしまうところから生ま  
れています。一方で、宗教学は自己批判  
の繰り返し。『答え』ではなく『問い』を  
深めることで開ける視野があります」。

東日本大震災後、被災した集落の祭  
礼行事の復活過程を記録したことも  
ありました。その際現地に入っているポ  
ランテアから「何の役に立つの？」と投  
げかけられた言葉に困惑した、とも。

「ノーベル賞を受賞した大隅良典博士  
の『役に立つ』という言葉が社会をタメに  
する」という言葉にとっても共感しまし  
た。役に立つかどうかという短絡的な  
価値判断の先にある、一見役に立ちそ  
うもない地平に研究や学問の本当の価  
値があると思います」。

滝澤先生は静かにそう語りました。

多文化社会学部  
**滝澤克彦** 准教授

東北大学大学院文学研  
究科博士課程修了。東  
北大学大学院文学研究  
科助教を経て2014年長  
崎大学に着任。現職。

講義 人間観とコスモロジー(多文化2年) / 宗教文化論(多文化3年) /  
宗教から見た日本(教養教育) / 宗教学(教養教育)他

Katsuhiko TAKIZAWA

PROFESSORS OF  
NAGASAKI UNIVERSITY



口

腔がん、インプラント(人工歯  
根)、睡眠時無呼吸症候群――。

口腔外科専門医の柳本惣市講師が関  
わっている三本の柱です。一見別物のよ  
うですが、そうではありませんでした。  
「メインとしている口腔がんは希少が  
んの一種で、研究が進みにくいのが実  
情です。そこでエビデンスに基づいた治  
療法を確立させるため、多施設共同臨  
床研究を行っています。同時に私自身、  
診療のガイドライン作成や規約改定の  
ための仕事にも携わっています。また近  
年、口腔がんが顎の骨を削った患者さん  
には保険適応でインプラント治療が可  
能になったことから、インプラントの研  
究も行っています。睡眠時無呼吸症候  
群は通常は内科で診療されることが多  
いのですが、長崎大学病院では私が認  
定医の資格を持っているので症例によっ  
ては口腔外科でも診ています。実は五  
年前、いびき防止のためのマウスピース  
型口腔内装置を開発して特許を取得  
しました。装着時の違和感も少ないこ  
とから、軽症の患者さんにこの装置を  
用いて治療しています」。

これらの研究や診療と並行しながら  
学生の講義や実習のアドバイザーをこな  
す柳本先生。まさに、歯学部が目指す  
「多様なニーズに対応できる歯科医師」  
を地で行くような毎日です。  
「今、求められているキーワードは医科  
と歯科の連携です。実際、長崎大学病

## 広がりにつつある歯科医の職域



口腔外科の治療は、抜歯や歯茎の切開などもあります。学生には、常に糸結びや器具  
の使い方をトレーニングするよう指導しています。



睡眠時無呼吸患者のために先生が開発したいび  
き防止口腔内装置。上  
下の顎部分に渡したベ  
ルトがフレキシブルに伸  
びるため顎を動かしや  
すく、着け心地が良い  
のだそうです。すでに安  
価で商品化されています。

医師と連携し、多  
様なニーズに対応  
できる次世代の歯  
科医師を育成します。



院は現場レベルで進んでいる  
ので、学生の学びも大きいと  
思いますよ。例えば「周術期  
口腔機能管理」。呼吸器・消化器のがん  
の手術や心臓血管手術、抗がん剤治療  
の患者さんの合併症軽減のために、事  
前に口腔ケアを行うものです。全国的  
に注目されていますが、長崎大学病院  
の達成率は全国でもトップクラスです。  
また、講義も病態別に疾患を出し、そ  
れに関連する診療科が教える統合科  
目があります。疾患によっては内科や  
精神科の医師が教えることもありま  
す。我々教員が病態を想定してシナリ  
オを書き、それを受けた学生がグルー  
プで討議するもので、離島実習と合わ  
せて長崎大学の特徴の一つです」。

口腔外科一つとってもその領域は多様  
化している中、医師と連携するために医  
学的知識も学ばなければならず、まさ  
に盛りだくさん。しかし身近に柳本先  
生というロールモデルが存在することで、  
イメージしやすいのではないしょうか。

大学病院 有病者歯科治療部  
**柳本惣市** 講師

長崎大学歯学部歯学科卒業。博士  
(歯学)。長崎大学歯学部附属病院第  
一口腔外科研修医、医員、助手を経て、  
2006年長崎大学病院口腔外科講師  
に着任。2014年より現職。

講義 口腔外科学I(歯4年) / 口腔外科学I実習(歯4年) / 臨床解剖学(歯5年) /  
統合科目:口腔腫瘍学(歯5年) / 統合科目:睡眠障害と疾患(歯5年)

Souichi YANAMOTO

PROFESSORS OF  
NAGASAKI UNIVERSITY



**「巻」** 岐、対馬、五島の医療福祉関係者で彼の名前を知らない人はいない」とまでいわれているのが離島医療研究所の小屋松淳助教です。

「それはオーバーですが、離島実習のコーディネートを担って五年目です。さすがに方々で顔を覚えてもらえましたね。」

長崎大学の医学部、歯学部、薬学部には、全国でも珍しい離島実習のカリキュラムがあります。近年、全国的に地域医療教育の必要性が叫ばれています。長大の離島実習は今年で十三年目になりました。

「学部によってニーズが違いますが、例えば医学部医学科の場合、地域中核病院、診療所、保健医療行政、福祉施設での実習をバランス良く盛り込みたい。その受け入れ交渉は、実際に現場に足を運んで進めます。皆さん気持ちよく協力くださるのでありがたいですね。受け入れを継続していただくために学生には緊張感を持って実習するよう言いつつ、トラブルには神経を使います。幸い、医療や福祉に携わる方々は人を見捨てるよりは救いたいという方ばかり。再発防止のための改善を行いながら関係性を長年積み上げてきました。」

先生はコーディネートの業務の他、研究所のある五島中央病院での診療もこなします。また、五島市の処方箋情報の一括管理に関する医療情報共有化研究も行っています。

## 離島実習で地域医療を学ぶ



五島市で行われている住民健診は大学の疫学研究も兼ねており、各学部の学生が実習で参加。現場での動き方や高齢者への接し方など小屋松先生が温かく見守っています。



学生が中心となって五島市で行った医療と福祉のセミナーの発表も統括責任者としてアドバイス。「低学年のうちから自発的に島での研修を体験する学生も増えたので頼もしいですね。」

高齢化社会での医療と福祉の連携など、島だからこそ学べることがあります。



「いわば『お薬手帳』の電子化ですが、莫大な医療情報をどう分析して次のアクションにつなげるか。その評価も大学の役割の一つであると考えています。研究の過程でさまざまな関係者との出会いが生まれ、新たな実習先が開拓されるといふフィードバックもあります。」

離島を舞台に大学が展開する実習、診療、研究の輪。その中で、高齢化問題や、治療後の生活まで視野に入れた医療と福祉の多職種連携など、島では多くの学びがあります。

「特に、地域の人たちが抱えている期待や医療関係者の情熱を肌で感じてほしい。これは学内の座学だけでは分かりません。中には、離島実習の経験を経て島の病院を選ぶ研修医も現れてきました。うれしいですね。しかし、それに限らず地元や海外でも島での体験を役立ててほしいのです。」

地域の現場での貴重な体験は、プロの「たまご」たちの血肉となっています。

医歯薬学総合研究科  
離島・へき地医療学講座 離島医療研究所  
**小屋松 淳 助教**

長崎大学医学部医学科卒業、  
長崎県五島中央病院初期臨床研修医を経て、長崎大学病院および長崎医療センター小児科勤務。2013年より現職。

講義 医と社会I(医学科1年、保健学科1年) / 地域医療ゼミ「しまで学ぶ地域医療」(医学科1年) / 臨床実習(離島医療・総合診療・保健実習)(医学科4・5年、保健学科4年、歯5・6年、医6年)他

Jun KOYAMATSU

PROFESSORS OF  
NAGASAKI UNIVERSITY



**イ** ンド洋、太平洋、水が溶ければベーリング海峡を通って北極海へ。水産学部の近藤能子助教は、今もたびたび国内外の研究船に乗って世界の海に繰り出しています。長崎大学に着任する前は国立極地研究所の研究員でした。専門は海洋化学。船の上で何を調べるのでしょうか。

「海水中の鉄などの微量金属元素と生物生産の関係について調べています。海の中の食物連鎖の出発点は植物プランクトンですが、これが光合成で増えるには窒素やリンといった栄養分が必要です。でもそれだけでなく、微量ながら鉄などの金属元素が窒素代謝をはじめとする生物活動において大きな役割を担っています。しかし、デリケートな成分なのでこれまで循環機構が解明されていなかったのです。海水中の鉄の濃度は基本的に低く、鉄不足が生物生産の制限になっている海域は約30%もあります。鉄が枯渇しているエリアに鉄をまくとプランクトンがわっと増えるんです。私の主な研究テーマは鉄などの微量金属元素がどのように海洋で循環しているのかを調べることです。」

とはいえ、船そのものが金属の塊であることから、海水の鉄の調査には大変神経を使うのだそうです。他の成分と混じらないよう特殊な器具を使い、作業の段取りも厳しく決められています。

「長期の調査航海はお金もかかります

## 海の不思議や未知の領域を化学で探る



港に停泊中の長崎丸のデッキで採水器を扱う先生。このような調査器具の扱い方も実習で学ぶことの一つです。



1か月以上にもなる航海では、ダイナミックな大自然に感動することもしばしば。クジラが接近し過ぎて調査が継続できず、みんまでしばらくクジラ見物をしていただくこともあったそうです。

プランクトンの生物活動に大きな役割を持つ、鉄など微量栄養素の循環機構を解明しています。

から、他の研究者と共同調査をすることもあり。自分が採ったパラメータだけでは分からないことも、物理や生物など他分野の研究者の気付きがヒントになることもあるのが海洋研究の面白いところですね。水産学部では練習船での乗船実習があり、私も同乗して学生の調査や解析を指導しますが、チームの中での協調性は実習で身に付けてほしい大切な資質です。また一度航海に出ると単には戻ってこれませんから、しっかりと道具の準備をすることも必要です。最初はバタバタしていた学生が、半年も過ぎると言われなくてもテキパキ準備をしているのを見ると、ああ、成長しているなとうれしくなります。」

意外なのは海外で出会う研究者の半分は女性だということ。

「日本では少数派だったので励まされました。しかもみんなタフで頼もしい。海洋の環境研究は未知の領域もあります。地球環境の保全を目指す研究者が一人でも多く巣立ってほしいですね。」

水産・環境科学総合研究科 水産科学領域  
**近藤能子 助教**

東京水産大学水産学部卒業。東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻博士課程修了。南カリフォルニア大学生物学研究所科学科特任研究員、国立極地研究所特任研究員を経て、2015年より長崎大学へ着任、現職。

講義 海洋生産管理学実習I(水産2年) / 海洋環境科学実習IV(水産3年) / 乗船実習X(水産3年)他

Yoshiko KONDO

PROFESSORS OF  
NAGASAKI UNIVERSITY



毎

年七月に行われる長崎大学のオープンキャンパスで人気なのが、薬学部の岸川直哉准教授の実験コーナーです。

「紫外線ランプを使って、身の回りの日用品から出る蛍光を見せます。昼間にトンボはよく見えるけれどトンボは見えないけれどホタルは一匹でもすぐに発見できます。光らせるとトンボは見えないものを見ようとする技術。細胞も光らせることで特定の成分が働いているかが分かります」。

岸川先生の専門は分析化学で、特に蛍光と化学発光を研究しています。ノーベル化学賞を受賞した下村脩博士は、薬学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部の出身ですが、発光研究の第一人者です。

「博士の発見で発光の世界はぐっと広がりました。私が専門としている分析化学は、主に物質の量や種類を調べる方法を開拓する学問分野です。血液中の医薬品の濃度は薬効や副作用に関連します。また、体の中の生体成分の濃度を測ることで病気の予測もできます。分析は化学の基本。まず何が、どこに、どれくらい含まれているかを調べることからすべてが始まります。そのためにより良い分析方法を探るわけですが、濃度が低い物をいかに正確に測定できるか、感度で勝負が決まります」。

## 発光させて見えないものを見る



先生が用いた試薬の実験写真が、国際的な学術誌の表紙を飾りました。

分析化学は取扱いジャンルが広く、発想の転換で新発見も!

特に私が使う蛍光や化学発光の技術は高感度な分析方法として信頼性も高いのです。医療以外にも応用できそうです。大気汚染物質や食品中の成分、中には犯罪捜査に協力して警察といっしょに証拠を分析することもあります。私の研究室出身者の中には、警察の鑑識で活躍する方もいます」。

「それだけに、あるジャンルで失敗した方法が別の場面に応用が利くというケースもあります。例えば最近、光る物質を作ろうと合成した試薬が、人の酸化ストレスの診断に役立つことが分かりました。実験に行き詰まっても一歩引いて冷静に考える習慣を付けていれば、学生だつて新発見も夢じゃありません」。地道に粘ることが多い理学系の世界で、発想の転換が功を奏す、一風変わった分野。そのためにも、日頃から世の中で何が求められているか、アンテナを張っておくことが大切、と先生は語りました。

医歯薬学総合研究科 生命科学専攻  
**岸川直哉** 准教授

長崎大学薬学部卒業。長崎大学大学院薬学研究科博士前期課程修了。博士(薬学)。2001年より長崎大学に着任。2008年より現職。

講義 薬品分析化学(薬1年)/ピギナーのための物理化学(教養教育)/健康薬科学概論(薬2年)/創薬科学(薬4年)他

Naoya KISHIKAWA

PROFESSORS OF NAGASAKI UNIVERSITY

長

崎大学には九つの学部以外に、学内共同教育研究施設等が十五あり、その一つがダイバーシティ推進センター。子育てや介護などのライフイベントとの両立支援や、教員、職員、学生がより「働きやすい」「学びやすい」環境づくりを目的に、大学内を改革しています。藤井直子助教はここで事業運営の役割を担いながら、キャリア教育などでも講義を担当しています。

「私の専門は労働法です。入学して間もない一年次に、働くことから生じる義務と権利の基礎知識を教えます。労働時間と割増賃金についての決まり事や通勤災害の話などは労働者の権利の部分です。基本的な権利を知らずに苦しむことにならないようサポートします」。

アルバイトや就職活動など、大学生になると急に「働くこと」が身近になりますが、労働者が法律でどのくらい守られているか知らない学生もいますか? 「多いですね。そのほか女性が生涯働き続けるのと結婚などで辞めてパート再就職をするのでは生涯賃金が約二億円違うといった話も、ライフプランを考える際の参考になればと伝えています」。

先生ご自身は、以前は法務省で働いていたと聞きました。

「大学で刑法を学び、法務省や地方検察庁で働いていました。同期の男性はみんな捜査畑で、私も現場でバリバリ学んで働きたかった。でも当時、特に未婚の

## 「働くこと」の義務と権利を知る



長崎大学には子育てや介護などで研究時間の確保が難しい研究者に対し、大学院生などをテクニカルスタッフとして雇用し、研究継続をサポートする制度があります。藤井先生のテクニカルスタッフは多文化社会学部の篠崎碧さん。英語力を生かし、英国の労働法関連の文献を翻訳し概略をまとめるの手伝っています。



この4月にはダイバーシティ推進センターの下、国の企業主導型保育事業の助成を受けて大学教職員用の「文教おもやい保育園」が開園しました。

私も壁にぶち当たりましたが、悩みや葛藤を経て今があります。



女性は総務や秘書職に就くことが多く、悩みました。結局辞職を選択し、当時の葛藤をバネに、働くことを取り巻く法律をもう一度学び直して私の専門分野にしようと大学院の門を叩き、今があります」。

長崎に職を得てからは、パートナーを横浜に残して二人の子どもさんと共に長崎暮らしなのだそう。 「子連れ単身赴任です。伊東昌子センター長をはじめ周りの方や家族の理解と協力があって今の生活があります。好きなだけ研究をしていた頃が懐かしい。私にとつての憧れのロールモデルは女性恩師です。日本労働法学会・ジェンダー法学会といった分野で要職を歴任しながら私たちの知的好奇心を刺激してくれました。私も、学生に対して働く社会をより良くする動機づけができた理想です」。

柔らかな語り口の裏には葛藤をキャリアに変えた強靱な意志がありました。

ダイバーシティ推進センター  
**藤井直子** 助教

東京都立大学法学部卒業。東京にて法務省勤務の後、早稲田大学大学院法学研究科博士課程入学。2012年より独立行政法人労働政策研究・研修機構労働使関係部門の臨時研究協力員。2015年長崎大学に着任、現職。2016年より長崎大学地方創生推進本部キャリア支援センター助教兼務。

講義 キャリア入門(教養教育)/自分のキャリアを考える講座~男女共同参画とダイバーシティの視点から~(教養教育)

Naoko FUJII

PROFESSORS OF NAGASAKI UNIVERSITY



# サークルの星!

キラッと光るサークルや  
活躍する学生をクローズアップ!

今回紹介した  
サークルは  
すべて  
部員募集中です

## アルティメットサークル「BOB CATS」

### バスケットボール×アメリカンフットボール アメリカ生まれの新スポーツ

米国生まれの新しいスポーツ「アルティメット」。ボールではなく、ディスクを投げます。キャプテンの手嶋太一さん(経済学部3年)のお話です。「バスケットボールとアメリカンフットボールを足して2で割ったようなものです。コートの中で7対7でパスをつなぎながらエンドゾーンにゴールして得点を競います」。メンバーは50人弱で9割以上が初心者だそうです。「できたばかりのスポーツなので戦術も自分たちで話



し合う自由さがいいですね。九州には10チームほどあり、試合はいつも県外です。基本は芝のコートですが、ピー

ディフェンスをかわして投げるので、手首のスナップを利かせたサイドスローが基本です。

チでやることもあります。砂地は柔らかいので思い切りダイビングキャッチができて爽快ですよ」。

メンバーは  
男女50人いますよ



## 全学サークル連合

### 部室の割り振りからイベント采配まで、 全サークルの調整をする「要」的存在

長崎大学に登録されているサークルのうち、約80を統括するのが全学サークル連合です。「新歓祭のブースやオープンキャンパスでのサークル紹介などのイベントを構成したり部室の割り振りをしたりといったサークル間の調

整が主な活動です」と語るのは広報の木村紘郁さん(環境科学部3年)。今年は九州規模の学生会研修の運営当番が回ってきました。「思った以上に仕事は多いけれど、他大学との交流も楽しいし、全体を見渡しながら自由な発想で

調整は大変ですが、  
達成感が味わえます



長大祭をはじめ、イベントの運営、警備、広報などをサークルで分担します。「サークルの数より部室の数が少ないので部室争奪は熾烈です。運営に協力的なサークルに優先的に割り当てますよ」。なかなかシビアですね……!

行動できます。かつてあった学友会のようにしっかりした自治組織を目指しています」。

## っじゃすみん

### 家具や家電を卒業生から回収し、 毎年3月下旬には「リユース市」開催

受験生にぜひ知ってほしいのがこの「っじゃすみん」の存在。卒業生が使わなくなった家電や家具を引き取り、新入生のために格安で提供するリサイクル活動を主としたサークルなのです。部長の宮口光太さん(環境科学部3年)のお話です。「今年で20年と歴史もあります。主に2月から回収を始め、3月下旬には中部講堂の前でリユース市を開催し、新入生や

留学生に提供します。実は僕も最初ここで本棚を買い、安くて感動しました。環境科学部でエコリサイクルに興味を持ち、自分でやってみようとして入部しました。新生活のスタートは何かとお金がかかるので上手に利用してほしいですね」。

体を張って  
リサイクル!



回収はリヤカーで。「長崎は坂と階段が多いので大変ですが、筋力もついて洗濯機くらいなら一人で運べるようになります」。回収したら丁寧に掃除。売り上げはこの掃除道具代や売れ残りの廃棄代に回されます。

## 落語研究会

### 地域のイベントや老人ホームに引っ張りだこ 場数が多いから上達もめきめき!

いわゆる落研、大学サークルの定番です。長崎大学の落研は、地域のイベントなどでも引っ張りだこなんだとか。「週1、2回のペースで病院や社寺、老人ホーム、イベントの余興で演じます。場数が多いので、みんなすぐ上達します」とは広報の柴田翔生さん(薬学部3年)。その他年に2回は200人規模のホールで「やわた寄席」を開催することでも有名。なぜ「やわた」? 「立ち上げて46年目なのですが、最初のメンバーが8人だったからと聞きました」。

今ではメンバーも20人。稽古は人が演じるのを他のメンバーが観客として聞き、批評を紙に書いて渡す長大方式。「練習は週3回ですが強制的ではなく、自分のペースで取り組めるのがいいところです」と会長の太田星郎さん(環境科学部3年)。



「火焰太鼓」を演じる太田さん。江戸落語の他、見台など道具立てのある上方落語を得意とするメンバーもいます。

昔々、江戸時代には  
ご商売というのは、  
その種類ごとに  
集まって商いをして  
いたそうですね...



初心者でも  
気軽に  
始められますよ



1人で形を決めていく「演武」と、1対1の「組手」の2種類がある空手道。心技体が基本ですが、反則規定などは毎年改正されるため常に学習が欠かせないのだそうです。

## 空手道部

### 男子も女子も全国的にハイレベル 昇段、昇級を目指す部員も多数

昨年の全国国公立大学空手道選手権大会で、男子団体組手でベスト8、女子団体組手で優勝という輝かしい成績を収めた空手道部。特にここ数年女子の活躍が目覚ましく、それに刺激されて男子も上位を狙えるようになったのだそうです。「空手はいろいろな流派があるの

ですが、長崎大学の場合、基礎や形を重んじる松濤館流を基本としているので初心者でもなじみやすいですよ」とはキャプテンの三輪拓生さん(工学部3年)。週3回の稽古の他、自主練習日もあって、昇段、昇級を目指して熱心になっただけでなく、稽古する部員も多いのです。

# 歴史研究の宝庫

# 長崎

みなさんは、「長崎」という言葉を聞いたとき、どの場所をイメージするでしょうか。現在の長崎市を思い起こす人もいれば、長崎県と考える人もいるでしょう。

私は、日本近世期の長崎を題材に歴史研究をしているのですが、貿易中心に運営された都市長崎と、豊かで多様な歴史的個性を備えた現在の長崎県全体という両方の「長崎」を対象にしています。長崎を二つの視点から研究することは、長崎の特質だけではなく、当該期の日本社会のありようを考えることにつながると考えたからです。

## 複合都市長崎

研究の一つとして取り組んでいるのは、近世都市長崎の仕組みや社会的な成り立ちを明らかにすることです。近世都市長崎は、現在の長崎市よりも小さく、長崎駅周辺から新地中華街あたりまでを指します。

したがって、情報の流れに注目すると、そこから逆に、長崎の都市の特質や、長崎を磁場とする関係が、ヨーロッパ・アジアと、都市長崎、長崎に関係するさまざまな日本の土地へとつながっているのを見いだすことができます。近世都市長崎を出発点に考えることは、日本や世界の歴史のつながりを考える格好のテーマなのです。

集団から成り立つ、複合的な構造の都市でした。江戸幕府の直轄地であることから、支配のため長崎奉行が百人程度の家臣と共に派遣され、その奉行の下で、約二千人の長崎の町人出身の地役人が貿易と行政の実務を担い、時期により変動しますが、おおよそ三〜四万人の町人がいました。それ以外にも、出島のオランダ人や唐人屋敷の唐人といった長期間滞在する異国人や見落とされがちなのですが九州各地の大名家が構えた蔵屋敷に送られてきた大名の家臣たちがいました。

これらの諸集団は、それぞれの居住区がだまかに分かれており、身分と居住地とが即応した集団によって構成された都市が長崎であり、そこでオランダ貿易や唐人貿易が行われていました。都市全体が貿易を支える仕組みになっていることから、貿易を行うオランダ東インド会社や唐人たちについて研究すると、おのずとその仕組みを成り立たせていた都市の構造に行きつくのです。

そこで研究では、貿易品や海外情

報、そして西洋の科学技術の中継点となった出島のオランダ商館の史料

と、長崎の都市という空間に関わる日本側の史料の双方を組み合わせて分析することによって、都市長崎の特質を考えています。

例えば、オランダ経由で出島にもたらされた海外情報は、まず長崎の地役人であるオランダ通詞が翻訳します。翻訳された情報は、オランダ風説書などとして幕府の外交政策の検討材料となるべく公式に江戸に送付されますが、当然ながら、長崎奉行所や通詞を経由して長崎の町にも蓄積されます。その蓄積された情報を求め、佐賀藩や鹿児島藩などの九州の諸藩は、自分たちの出先機関である蔵屋敷に出入りする人々（当時「館人」や「屋形人」などと呼ばれていました）を経由して情報を集めます。江戸に送られた情報よりも、詳細かつ本質的な情報を、九州の藩が手にすることもあり得たのです。

## 兵営国家と島原の乱

次に、もう一つ重要なテーマだと考えているのは、有名な島原の乱について、その歴史的意義を社会の仕組みから明らかにすることです。

よく知られているように南島原市にある原城を舞台に、天草四郎を大将とする四万人弱の一揆軍と、私の推計では十五万人近い幕府軍が、三カ月近く戦闘を繰り返しました。その長期間の戦闘を支えたロジスティックや人の集まり方に注目しています。

近世社会は、兵農分離が行われ、戦闘を専門とする武士たちが持続的に戦い続け、それを農民など他の身分が支える、いわば国家全体が「兵営」として機能する社会システムができた時代とされています。しかし、実際にその社会システ

ムがきちんと機能していたかを検証できる事例は少なく、島原の乱はその極めてまれなケースです。戦争の遂行という点から検討することは、近世社会の本質を考える上で、とても重要なことです。

また、島原の乱を経て、日本国内ではキリスト教禁制が徹底され、やがて宗門改制度へとつながります。さらに江戸幕府は、重要な貿易の担い手であったポルトガル船を一六三九年に追放して、平戸から出島にオランダ商館を移動させます。その後二百年余りの江戸時代を特徴づける宗教制度や外交制度によって、島原の乱は、大きな転換点であったことになりました。

近世の日本社会の特質を考える上で、島原の乱を研究することはとても重要であり、さまざまな論点が生み出されてくるのです。

そして、これらの研究の素材である史料は、長崎だけではなく九州やオランダにまで広く存在しています。長崎を研究することは、長崎という地域の歴史の豊かさを明らかにすることにとどまらず、日本近世社会の特質や、世界の中における日本のありようを考える大きなヒントとなるのです。

長崎を研究すると、  
世界の中の日本社会の  
ありようが見えてくる

Text by Naoki KIMURA



木村直樹 教授

長崎大学多文化社会学部教授。東京都生まれ。東京大学文学部卒。二〇〇九年博士（文学）。東京大学史料編纂所助教を経て二〇一三年より長崎大学に兼任。専門は日本近世史。長崎から江戸幕府の外交・政治史を研究。

近世都市長崎の概念図



多文化社会学部の新入生合宿での原城フィールドワークの様子。

# 経験がものをいうのは、 船上もグラウンドも同じ

長崎大学水産学部附属練習船長崎丸 二等航海士

## 楠本成美

くすもとなるみ  
長崎市生まれ。長崎大学水産学部卒業後、東京海洋大学水産専攻科修了。株式会社十八銀行本店営業部勤務を経て、2016年長崎大学へ。三級海技士、第一級小型船舶などの船舶関連資格の他、日本サッカー協会認定女子一級審判員の資格を持つ。

### 毎日条件の違う海で 船を操る難しさ

長崎大学の水産学部は二隻の練習船を持っており、学生の乗船実習や研究調査を目的に運航しています。その一つ、長崎丸に二等航海士として乗務しているのが楠本成美さん。長崎大学水産学部出身です。

「今の仕事は船の運航と学生への指導が主です。学生の実習では操舵室で機器の操作方法を教えることもあります。昨年十一月は四年生の乗船実習が十六日間あり、瀬戸内海を抜ける航路を運航してきました」。

瀬戸内海……波も穏やかで楽しいクルーズのようですね。

「いえいえ、非常に緊張感の高まる航路ですよ。日本の航路の中でも船の交通量が特に多く、通る場所によって交通の決まりことも複雑です。あの船がこう来そうだからこう避けようという事前の判断や動作は、理屈より体で覚える感じですね。海はその時その時で、波、風、視界、他の船舶の状況などすべて条件が違います。その中で、調査のために同じ海域にびたりと船を止めることを求められることもあります。経験を積み重ねてスキルを身に付けて行くしかありません。難しいけれど、達成できたときの醍醐味もありますね」。

### 航海士と サッカーの審判員

水産学部から東京海洋大学水産専攻科へ進んで航海の技術を磨き、航海士まっしぐらのキャリアを歩んだかに見える楠本さん。しかし卒業後は銀行勤務の時代がありました。

「一年半ほど、地元の銀行で働いていました。どうしても陸に上がって土日が休みの仕事を選びたかったです」。

その理由は楠本さんのもう一つの肩書にありました。なんと、サッカーの審判の資格を持っているのです。それも一級！

「日本サッカー協会認定の女子一級審判員です。長崎県内で現在活動している女子一級の審判員は私一人。一級審判員は誰でもなれるわけではなく、資格審査を受けるための推薦も、年に数名だけです。六年前、長崎国体を前に「上級を目指してみないか」と声をかけていただいたので、とにかく資格取得に向けて集中するため陸上勤務である銀行の仕事を選びました」。

中学生の頃男子に交じってサッカーをしていた楠本さん。あるとき、女子が出場できない試合で帯同審判員としてチームに貢献できると思い4級を取ったのがきっかけだそうです。難関をパスして見事女子一級審判員になってからは、

本来目指していた航海士の仕事に転職。今では航海を終えて陸に上がると全国の試合に駆け付けています。この世界では、審判をすることを「ホイッスルを吹く」というそうです。四級は市の試合、三級は県、二級は九州、そして一級は全国大会で吹くことができます。

「女子サッカーの『なでしこリーグ』も吹きますよ。基本は女子のゲームですが、男子の高校総体や選手権の予選の審判もします。試合では、選手から不満を言われたりサポーターからヤジが飛んできたりすることもあります。自分の決定を貫き通す意志の強さも必要です。正確な判定のためには、

ボールが蹴られてから走りだしても間に合いません。次はここへパスが出され、この選手が走っていったあたりで接触があるかもしれない……そう常にいくつものパターンを予測し

ながら走ります。同じゲームは一つもなく、試合中はその瞬間その瞬間でいくつもの判断をし、一試合通すと何百という判断と対処をしなければならぬので、多くの経験が必要です」。

それは本業にも通じますね。「そうですね、現場の動き方の基本は船もサッカーも共通点は多いですよ。船の上で学生と過ごすときも、彼らの次の動きや展開を予測しながら適切な指示

を出します。両手をふさいで物を持ち運びしている学生を見て、今もし揺れたら危ないなとか、ワイヤーの下に入るのは止めさせようとか。ロープの結び方にして、ただ覚えるだけでは、

その一本がゆるいと事故につながるというところが最初はピンとこないものです。私自身も学生の頃乗船実習でずいぶん失敗をやらかしました。それが今では大切な経験として指導に生きています」。

一回の乗船を終えて帰ってくる、自分自身の成長に気付くという楠本さん。サッカーの試合も同じだといいます。

「二足のわらじはハードなときもありますが、特に精神面において審判と航海士の経験が相互にフィードバックされていることに気付かされます。今、私が持っている資格は三級海技士ですが、乗船実績ができたので現在は二級海技士の取得を目指している最中です。せっかくそこにチャンスがあるならば、チャレンジしたいですね」。

たゆまぬ努力というより自然体。仕事の他に夢中になるものを育んでいくことの大切さと楽しさを教えてくれました。



審判員のユニフォームを着た楠本さん。判断をきちんと伝えるため、動作もキビキビ、表情もキリリと引き締まります。



## 金型加工の不具合を レーザーで感知する

穏やかな茂木港を見下ろす丘の上。新しい工業団地「長崎テクノヒル茂木」に、二〇一五年、自動車部品メーカーである株式会社カネミツのリサーチセンターができました。ここでは、カネミツと長崎大学による共同研究が行われており、今年二月、ある検査機械が、ついに実用化にいたりました。一連のプロジェクトを推進した一人が工学研究科の矢澤孝哲教授です。

「私が開発したのは光を用いたレーザー検査機です。通常、金属のプレス加工では、型抜き過程で加工面にバリと呼ばれる切りくずが発生することがあります。工場での生産ラインは秒単位のスピードで進むため、製品の検査はこれまで一部を抜き取り人間の目でチェックするしかなく、歩留まりに限界がありました。しかし、この新しいレーザー検査機ならば、光を当てて製品の状態をリアルタイムでチェックし、正確に全品検査ができます。私が保有している特許技術を応用して小型化、高速化したもので、構想から実用化まで四年かかりました」。

共同研究のパートナーであるカネミツの金光俊明社長にもお聞きしました。

「当社の主力は自動車部品のブリーリ(滑車)ですが、独自の回転成形法の技術を用いて新しいジャンルの製品開発も進めています。しかし、新しいだけにどのような不具合が生じるのか、分からないことだらけです。そこで大学の持つ知見が突破口になるのではないかと考え、母校でもある長崎大学の恩師、石松隆和教授に相談しました。その折に浮上したのが、矢澤先生が長年研究している光学測定技術でした。これを当社の商品検査に生かせないかと共同研究が始まったのです」。

製品開発の前段階である基礎研究は、自前で丸抱えするよりも大学など外部機関と共同する方が可能性も広がります。カネミツの社は兵庫ですが、長崎市にリサーチセンターを設立したことで、研究者と現場担当者が顔を合わせて打ち合わせがしやすくなり、研究のスピードも加速しました。



リサーチセンター(左)ができた翌年にはエアバッグの部品を作る工場(右)も新設。今年夏にはさらに第2工場も増設され、長崎はカネミツの新たな生産拠点になりつつあります。

# 長崎大学とカネミツが レーザー計測システムを 共同開発



リサーチセンターからの眺めは抜群。左から矢澤先生、学生の徳永さん、金光社長、開発担当の皆さん。

## 装置の設計から検査まで 学生もチームに貢献

引き続き矢澤先生のお話です。「今回のプロジェクトでは、学生も大きな役割を担いました。通常、こういった大学と企業の産学連携事業の場合、教員がすべてを仕切って学生は実務をやらされるだけというケースが多く、自分が全工程のどの部分をやっているのか分かりません。私の研究室では装置の光学設計、製作、検査のシステム設計まで学生が深く関わります。もちろん社外秘の事項もありますから気を遣いますよ。一方で学生側にしてみれば実際に目で見て、手を動かして微妙なニュアンスを調整しながら課題を解決するという一連の流れを体験することで、実社会に出たとき役

立ちます。教育と研究のバランスをカスタマイズしていくのが、私の役割だと考えています」。

四年次より検査機の設計から実用化まで携わった徳永啓樹さん(大学院二年)にもお聞きしました。

「最初は大変なプレッシャーでした。失敗もありましたが現場の方々は辛抱強く受け止めてくれました。特に難しかったのが研究室と工場の環境の違いですね。生産ラインのスピードはもちろんですが、振動や加工で使用される油がかかったときなど、実用化に向けてあらゆるトラブルを想定しなければいけません。一つ一つクリアしながら満足いく結果が出せたときは、カネミツの方にも先生にも良い報告ができるとホッとしました」。

その言葉を受けて金光社長も語ります。「この光学技術が量産現場で連続的に使

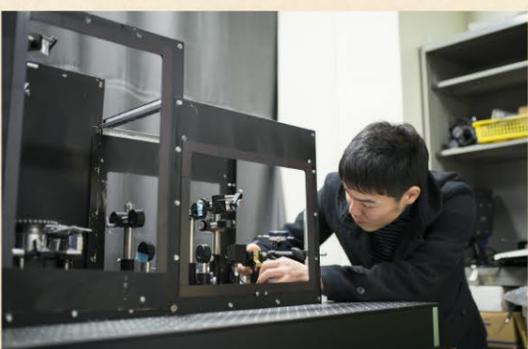


工学研究科システム科学部門  
矢澤孝哲 教授  
Takahiro YAZAWA

東京都出身。東京都立科学技術大学工学研究科工学システム博士課程修了。博士(工学)。日本学術振興会特別研究員、新潟大学大学院自然科学研究科助手を経て、二〇〇四年長崎大学に着任。二〇一五年より現職。産学官連携戦略本部を兼務。専門領域は精密生産技術で、光応用計測と精密(量産)加工(微細加工)。



こちらがカネミツのエンジン部品。ほかにエアバッグ用部品など幅広く量産しています。



こちらがレーザー検査機。右が徳永さん。精密工学会の全国大会でベストプレゼンテーション賞を受賞しました。

うことに向いていることも分かったので、今後は他の製品作りの場面で活用できないか、横の展開を探っています。同時に型抜きに使う金型の寿命を延ばすための金属疲労の解析も、同じく工学研究科の小山敦弘准教授の下で進んでいます。実はリサーチセンターには人材確保の面でも期待しています。本社の兵庫県は関西の大都市圏に近く競合会社も多いのですが、長崎ならば地元で就職したい優秀な人材を確保しやすいのではないかと見込んでいます」。

一般に企業と大学のコラボレーションは課題も多く、ここまでがっちり組めるケースは珍しいともいわれているそうです。

長崎大学とカネミツの共同研究は、この港の見える丘から好スタートで動きだしました。

# 第8回 長崎大学 ホームカミングデー

ホームカミングデーとは、  
卒業生のみならず、母校長崎大学に帰ってきてもらい、  
大学の近況に触れ、懐かしい恩師や学友との  
再会と交流・親睦を深めていただくために、  
大学が卒業生のみならずをお招きするものです。  
卒業生のみならず、  
近隣の住民の方のご参加も歓迎しております。

HOME  
COMING  
DAY  
2017



国立大学法人  
長崎大学  
NAGASAKI UNIVERSITY



特別講演

川久保 晶博 氏

(海きらら館長/水産学部卒)  
演題「九十九島の自然と海きららの取り組み」

日 時 / 2017年6月10日(土) 14:00~17:00 (13:30開場)

場 所 / 長崎大学中部講堂(長崎市文教町1-14)

申 込 / ウェブまたは電話にてお申込みください(参加無料)

申込、問い合わせ / 長崎大学広報戦略本部 TEL.095-819-2007 (平日9時~17時受付)

詳しくは  
こちら



# Choho

長崎大学広報誌  
[チョーホー]

編集後記

「世界一受けたい授業」の長崎大学版である「この先生に教わりたくない!」の第1弾をちょうど1年前のChoho55号の特集としてお届けしました。今回の特集は、「この先生に教わりたくない!」の第2弾です。各学部から推薦いただいた若手の先生方10人にご登場いただきました。授業のみならず、現在取り組んでおられる研究、そして教育・研究にかけける情熱などについて語っていただきました。受験生の皆様には、高校までの授業では体験できなかった新たな発見、あるいは、こころの琴線に触れる事柄がきっと見つかることと期待しております。

さて、小林信之教授、池田幸恵准教授が退職に伴い、Choho編集委員を退任されることになりました。編集委員会にとって、かなりの戦力ダウンになりますが、やむを得ません。この場をお借りして、両先生のこれまでの多大なるご尽力に対し、厚く御礼を申し上げます。長い間、大変お疲れ様でした。

(原田哲夫)

【編集・発行】Choho企画編集会議

編集長  
原田 哲夫 広報戦略本部副部長 工学研究科 教授

副編集長  
相楽 隆正 工学研究科 教授

編集委員  
滝澤 克彦 多文化社会学部 准教授  
堀内 伊吹 副学長、教育学部 教授  
山口 純哉 経済学部 准教授  
松下 吉樹 水産・環境科学総合研究科 教授  
佐々木 均 病院 教授  
當山 明華 大学教育イノベーションセンター 助教  
西田 憲司 やつみゆーでスク マネージャー  
深尾 典男 副学長、広報戦略本部副部長 教授  
高藏 祐亮 広報戦略本部 主査  
井上 泉 広報戦略本部 主任  
尾中 紀夫 広報戦略本部 主任  
濱崎 麻依 広報戦略本部

川良 真理 編集  
三浦 秀樹 デザイン  
浅野 眞 企画編集アドバイザー

TEL.095-819-2007

FAX.095-819-2156

✉ www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

Choho(チョーホー) Vol.59

2017年4月1日発行

## Information

平成29年度 長崎大学公開講座 4月~9月

- ◆被爆者健康講話  
日時/6月~3月 毎月第3木曜日(全10回) 14:00~15:00  
長崎会場/国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館  
五島会場/五島市福江総合福祉保健センター  
※五島会場はインターネットでの中継講話となります。
- ◆第40回 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 市民公開講座  
日時/6月10日(土) 13:30~15:30(予定)  
会場/長崎ブリックホール
- ◆遺伝学講座15 遺伝について楽しく学ぼう  
日時/7月30日(日)13:30~16:00  
会場/長崎大学医学部保健学科 307講義室
- ◆小児難聴の診断・治療の最前線  
日時/8月20日(日)10:00~12:00  
会場/長崎大学医学部 良順会館・ボードインホール
- ◆特別支援教育公開セミナー(第15回)  
日時/8月24日(木)予定  
会場/長崎大学 中部講堂(予定)
- ◆長崎県がん診療連携拠点病院 県民公開講座  
「がんについてよく考えよう」  
日時/9月~10月(未定)土曜日13:00~16:00 会場/未定
- ◆災害(医療)の実際(仮)  
日時/9月~10月(未定)土曜日 午後  
会場/長崎大学病院
- ◆「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」  
長崎大学「夢・憧れ・志を育むリケジョ育成プログラム」  
日時/6月~12月予定(日時未定)  
会場/長崎大学、他
- 申し込み期間が終了したため掲載していない講座もあります。  
●開催時期・時間などは都合により一部変更することがありますので、ご了承ください。  
●最新情報は、長崎大学公開講座ウェブサイトをご覧ください。  
http://www.erc.nagasaki-u.ac.jp/  
●公開講座全般に関するお問い合わせ先  
長崎大学地域教育総合支援センター TEL.095-819-2233

## プレゼントクイズ

今号は先生特集でしたが、長崎大学には現在、教授、准教授、助教、講師を合わせて何名の教員が在籍しているでしょう(2017年2月現在)。

①  
99名

②  
199名

③  
1199名

解答は挟み込みのハガキにご記入のうえ、郵送してください(アンケートへのご回答もしっかりご記入ください)。正解者のなかから抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!

### 前号の答え/② 春

長崎大学多文化社会学部にはオランダ特別コースがあります。「おらんだ」は俳句の世界では、実は季語の一つです。何の季節の季語でしょう。

毎年旧暦の正月に長崎を出発する阿蘭陀カピタンの江戸参府は、4月1日に江戸入りするよう調整されていたといえます。つまり江戸の人々が参府の行列を見るのは必ず春だったことから、「俳句歳時記」では「阿蘭陀渡る」が春の季語となっています。

## 今回のプレゼント

長崎県産のあこや真珠を真ん中に、椿を模した羊毛で優しく包んだストラップ付きチャーム「福来椿」の登場です。真珠は女性のパワーストーンともいわれ、美や健康、愛情、出産のためのお守りとして、また贈り物としても古今東西人気のジュエリーです。本物の真珠を気軽に身に付けられるチャームタイプの福来椿は、第47回(平成27年)長崎県特産品新作品展優秀賞を受賞しました。今回は正解者の中から抽選で5名の方にプレゼント。



赤と白のセット3,493円。  
ギフトボックスでお届けします。

提供/PACORAL TEL.070-5489-3510

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/bussan\_bld/

\*「長崎よかもんショップ・四谷」好評営業中(長崎県東京産業支援センター1F)

18才のわたし  
新しいスタートです!



扉あけて  
新しいこときはじめてみよう~

想いを一緒に奏でたい。

ショートストーリー  
「扉をあけて♪~18才のわたし~」  
web・店頭で公開中

大切にしたい 心と心

18Bank 十八銀行